会員の皆様へ:年会費納入の情報:.郵便封筒の宛名下の数字参照。2025は2025年度分納入済

# しのばず自然観察会より 2025-2 2025.02.05

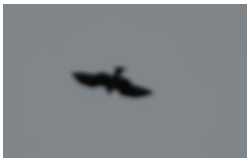
## 2025年２月の活動 不忍池 定点観察 ２月16日(日)

集合:午前10時 不忍池 蓮池南西端
(野外ステージ西側、 湯島天神下交差点寄り)緑の小旗あり
今回は雨天中止
持物:筆記用具、双眼鏡、飲み物、雨具
(マスク、敷物、昼食、防寒衣)
解散は午後1時頃ボート池畔の予定
参加費不要 非会員の参加も歓迎

**2025年3月の活動 不忍池定点観察は 3月16日(日)の予定です**

## 2024年１月の活動 不忍池定点観察から

１月12日(日)は肌寒い曇天、風がないのが救いという中、7名が参加しました。蓮池東・南岸園路の飲み食い屋台テントはなくなりました。一方、東岸には骨董市のテントが並びました。蓮池南西岸のハス刈りが進行中、日曜日なので作業はお休み、広くなった水面にはカルガモ6羽とユリカモメ。蓮池南岸には、薄氷が張っていました。若い人が多い他グループの探鳥会に出会いました。



上空のトビ

毎月見られた蓮池への水の流入はこの日は見られませんでした。昨年１月と同様に、コイは姿を見せませんでした。上空では久々にトビが2羽、弧を描いていました。ちなみに、不忍池の西岸、しのばず通りから直角に入る細道の突き当りに裏門がある忍ケ岡小学校の校歌(サトウハチロー作詞)の2番は、「くるり くるくる とんびがくるり 池にうつるよ輪をかく姿 忍岡の母校の名をば 空に書いたぞ 平がなで・・・」です。この日はゴイサギがイカダの上に休んでいたり、オオバンやホシハジロが陸に上がり、ダイサギが人と1m位の距離にいるなど、穏やかな光景が見られました。

筏上のゴイサギ

確認した野鳥:ドバト、スズメ、ヒヨドリ、ムクドリ、メジロ、ハシブトガラス、アオサギ、ダイサギ、コサギ、ゴイサギ、オオバン、ユリカモメ、トビ2羽、カワセミ2羽、オナガガモ、カルガモ、キンクロハジロ、ホシハジロ、
開花植物:ノゲシ、ホトケノザ、ムラサキカタバミ、キク、ツバキの品種、サクラの品種

## 不忍池定点 COD(化学的酸素要求量)測定2025. 01. 12結果

1月の観察会では、慣例となった不忍池の COD 簡易測定を行いました。パックテストという簡易測定で結果は例年通り(ほんの少し高め)でしたが、過去に見られた20あるいは30mg/lという高い値は出ませんでした。

| パックテスト COD(mg/l) | 2016. 01.10 | 2017. 01.08 | 2018. 01.14 | 2019. 01.13 | 2020. 01.12 | 2021. 01.10 | 2022. 01.16 | 2023. 02.19 | 2024. 02.11 | 2025. 01.12 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1. 蓮池 弁天堂前 | 7 | 5 | 8 | 8 | 4 | 11 | 4 | 4 | 5 | 6 |
| 2. 動物園池 弁天堂前 | 5 | 4 | 7 | 7 | 7 | 6 | 3 | 5 | 7 | 7 |
| 3. ボート池 南西端堰 | 5 | 7 | 5 | 7 | 3 | 12 | 5 | 3 | 4 | 7 |
| 4. ボート池 ボート場横 | 4 | 4 | 5 | 30 | 4 | 5 | 4 | 4 | 4 | 6 |
| 5. 動物園池 弁天堂後 | 7 | 20 | 8 | 7 | 4 | 17 | 5 | 6 | 5 | 5 |
| 6. 蓮池 弁天堂後 | 8 | 4 | 7 | 10 | 6 | 20 | 7 | 10 | 7 | 7 |

## 谷中霊園ニリンソウ生育地の一部を除草しました

1月 26 日(日)10 時過ぎから 1 時間半ほど、谷中霊園のニリンソウ生育地の除草を 6 名で行いました。霊園管理所から、「急斜面での作業は危険なので、下から手の届く範囲に限ってください。できないところは管理所の職員が後日やりますから。」と指示がありました。なお、除草作業ができるのは、ニリンソウの新芽が動き出す前のこの時期が最後になります。管理所職員さん 2 名と霊園ガードマンさんの立会いのもと、柄つき剪定ばさみなどを用いて草を刈り、刈った草を袋に入れる作業をしました。また、年間の業者委託による草刈り作業について、昨年はニリンソウ生育地に手を付けなかったようですが、今年は谷中霊園の他の区画と同様に初夏と秋に草刈りをすることを管理所と確認しました。なお、アズマネザサが繁茂し始めたもう一つのニリンソウ生育地は、昨年秋にササの根元から草刈りがされ、春先にニリンソウが陽光を浴びられるようになっていましたので、ひと安心です。

しのばず自然観察会　事務局　〒110-0001 台東区谷中3－1－9 小川潔 方
1975年創立 電話 03－3828－8775　URL:http://sinobazu.extrem.ne.jp
郵便振替 00100－8－84609 しのばず自然観察会　年会費 2,000 円

＊＊2024年以前の会費未納の方もお忘れなく！退会の場合は早めに葉書で事務局へ＊＊

# 2025年1月12日の観察会から 小川千恵子

9:35

ボート池の鉢の中にコサギ。ギャッ！と鳴いて、首を上下に何度も振って餌（？）を飲み込もうとしている。胸に柔らかそうな羽が、ふさふさ揺れる。

カルガモ４羽。ホシハジロ雌２羽、雄２羽。またカルガモ３羽、ホシハジロ雌１羽、雄６羽。ひっくり返したボートの上に、ユリカモメ２羽の間にホシハジロ雄１羽が首を背に曲げて眠っている。

浮き橋の北の水の中に細長い草が多数浮く。水の中に足先が黒い、小さなダイサギがいる。先のコサギのような胸のふわふわな羽は無い。嘴は薄めの黄色。水の中に立ち、首を伸ばして、水の中をのぞきこむ。少しすると。陸に上がる。

池の西へ戻る。水仙がひとかたまりになって、葉を伸ばしている。中に蕾がひとつ見える。

先のコサギが、首を伸ばして下を見て、餌をねらっている。コサギのすぐ南にアオサギ。頭の白と黒がはっきりしている。アオサギも、首を伸ばして餌ねらい。

ホシハジロ雌雄２羽ずつ、浮いて眠っている。今朝のホシハジロは計雌３羽、雄16羽。

イネ科（カヤ？）の10～15 ㎝位の濃茶色の葉が１本ずつ、ツンツンという感じで立っている。離れてみると濃茶色のかたまり。

ダイサギ

ガマは濃茶の穂が裂けて、綿毛が出ている。ガマもススキも薄茶色。

集合地

ムクドリ、ドバト、スズメが多数、草地で地面をつつく。

蓮は見えるところは刈られている。まだ池の一部のようだが、刈られたハスは、陸地に上げられてはいない。菊の花は残るが、葉は茶色。中に薄緑の葉が残る。

野外音楽堂北で、トビ２羽が頭上の高い空を大きく輪を描きながら上昇するのを見る。野鳥観察のグループ15人位が説明を受けながら、池の北の方を双眼鏡で見ている。

浮き橋。蓮は茶色の棒が無数に立っている感じ。棒の中のところどころにハチスが首折れてぶら下がっている。下を見ると、茶色の葉が鐘のようにぶら下がったり、水面の中にひっくり返って浮く。

ドバト、ユリカモメが一斉に飛び立ち旋回。見るとうしろにカラスが来てる。

カワセミ(雌)

人がとても少ない。ピーツという鋭い鳴き声。カワセミが蓮の葉柄の先っぽにいる。嘴は赤くないから雄と私が言うと、Saさんが「いや、赤いよ」と。赤い、赤くないと話していると、少し離れたところからカメラを構えていた潔の声。「黒いから雄」と。で、そちらを見ると、私達が見ているのより南の辺りを見ている。ということで、雌1羽、雄1羽。

弁天堂入口に人は多い。水が流れる音を模した人工音が流れている。参道の両側に出店が並んでいるのに、なんだかトイレの音姫みたいと思ってしまう。

大藤棚西のユッカは1本だけ花を咲かせる茎が伸びている。後の8本の茎は茶色の枯葉状態。

弁天堂出口付近でまた水の流れる人工音！何の為の音なのか？

落羽松はまだ赤茶色の葉が残るが、下の地面や池の水面に枯葉がギッシリ浮かぶ。遠くから落羽松を見ると赤紫っぽい色のかたまり。アキニレは葉は無く、実だけが残る。

ボート池の北側を経て西方向へ。キョウチクトウは葉は緑。花はもちろん無い。

ユリカモメ、オナガガモ、キンクロハジロ、カルガモ、オオバン。セグロカモメは今日はいない。

ハンノキは雄花がたれ下がり、雌花は雄花の枝の根元あたりに、小さいサクランボ型の実のようにくっついている。

SaMさんがヒマラヤスギのシダローズを持って来て下さる。見て、おもわず「花(バラ)のブローチみたい！」

バラのブローチ？:ヒマラヤスギのマツカサ

調べてみた。ヒマラヤスギの大きい実が枝についている方から少しずつ落ちて、残ったマツカサの先っぽが乾燥して花びらが開いたような形になったもの。

もう少し調べると、ヒマラヤスギの寿命は300～600 年！雌雄同体で雌雄異花。同じ木に雌花と雄花が咲くということか。花期は秋だが、開花の時期がずれて、自家受粉(近親交配)を防ぐ。雌花は樹齢 30 年以上になって咲く。富山市科学博物館前の城南公園に雌雄同株が5本、雄花だけをつける株が3本ある。植物の世界では、年齢を重ねるか、栄養状態がよくなると雄から両性になって、実をつけることがよくあるとのこと。

# しのばず自然観察会50年史関係の途中報告とお願い

毎月の観察会(月例会)当日にはその都度お伝えしていますが、2025年1月末現在、「しのばず自然観察会 50 年史」の進捗は以下のような状況にあります。ご意見、案を事務局までお寄せください。

(1)しのばず自然観察会50年史(本体)編集・出版の課題メモ

本文原稿:「上野しのばず学習会」の成果を原稿化する寄稿のひとつについて、使用する画像の取捨選択作業が進行中です。ほかの原稿は2度にわたって、観察会に出席した会員によって分担して読んでいただきました。

タイトル:現在、仮題「私たちの上野公園―しのばず自然観察会 50 年史」にしてあります。適切なタイトル案があれば、お寄せください。キーワードとして、「上野公園」と「しのばず自然観察会」をどこかに入れてください。ネット検索でヒットするためです。締め切り:4 月末とします。タイトルの書体やタイトルページのレイアウトは未定。

A5版で約200ページがモノクロ印刷、約100ページがカラー印刷で計約300ページ。500部印刷、150万円くらい。経費削減のため、原則として編集等はこちらでほとんど行い、完成稿に近いものを出版社に渡す。会の累積繰越高(出版寄付金を含む)から支出。なお、文字は日付や数値を入れやすくするため、横書き(毎月の通信と同じ組み方)にします。

表紙(カラー)のデザイン:1 月の観察会で、表紙(表 1)面は上野公園の自然のシンボルとしてタブの木の写真、裏表紙(表4)面は会の旗(新・旧)の写真がよいという意見がありました。

全体装幀　ページレイアウト　装幀　書体　ページ当たり字数等　・・・未確定

印刷装幀・製本方法(綴じ方):「表紙カラー、カバー・帯なし、見返しあり、並製あじろ綴じ製本、紙は「写真に耐えてぶ厚くないもの」で見積もっています。

文字・全体整合性の校正作業(原稿完成後の4月～6月ころ):未定　要・助っ人

納品　発送作業　発送先の範囲:要・助っ人(会創立記念日の 9 月 15 日出版が目標)

送料:原則は会の累積繰越高(出版寄付金を含む)から支出。

一般販売(出版社経由の販売)も可能としたい:原価より安い定価を決める必要がある(自然保護・公園緑地保全にかかわる全国の関係者や上野公園のファンにも入手可能な道を開いておくためで、出版社による営業(広報・売込み等)は求めないが、出版コードと定価コードを付けておく。そうすると全国どこの書店からでも注文すれば、出版社⇒取次業者⇒書店経由で入手できるようになる。)

「しのばず自然観察会」からの広報:新聞社等への献本。特に SNS(ソーシャル・ネットワーキング・サービス)等は、要・助っ人

(2)アーカイブ写真集　上野公園・不忍池について

しのばず自然観察会 50 年史の付録として企画していた「アーカイブ写真集　上野公園・不

忍池」については、費用の関係で出版延期または断念せざるを得ない状況にありました。2024年 12 月と2025年1月に、これらの出版に対して会員から多額の寄付があり、出版の経済的裏付けが確保されました。つきましては、企画・編集体制を整えたいと思います。当面は例会（野外活動）や、不定期の会合で詰めていきたいと思いますので、参画・ご協力をよろしくお願いします。

当初企画・用意していたのは、上野公園・不忍池の植物、野鳥、その他の動物、文化遺産（景観、建物、碑、もの、屋外展示・掲示物、人の動きなど）について、記録があるものを写真で残そうというものでした。これらについては、すでに失われたものを古写真で残すことも含まれています。

ただ、当初小川が用意した写真のなかには、不鮮明なもの、ピントが合っていないもの、色合いが悪くセピア色のものなど、印刷物として残すことの是非を検討すべきものもありそうです。

また、写真集の形になるので、合冊か分冊か、内容、レイアウト、装幀、解説文等について、あらためて検討してはどうか、せっかく出版のために寄付をいただいたので、プロの装幀家に頼んで写真集の形を整えてはどうか、また、広く会員からオリジナルの写真を提供していただくことは可能かといった検討課題もありそうです。

以前、「上野の杜事典」（初版）作成の折、持ち主の思い違いにより説明文と異なる写真が提供され掲載されたことがありました。昨今の世の中では、フェイクニュース（偽情報）が話題となっています。写真の適切さを確認する必要もあります。

出版物に写真を掲載する場合、著作権侵害にならないよう、原則として写真提供者が撮影し著作権を持っている写真、すでに著作権が消滅しているものについては所有権を持っている写真の提供に限ります。また、著作権が消滅しているものも含めて、他人（団体）の著作物からの転載は掲載できません（国・地方公共団体、新聞等による公告・報告書・報道物等は転載可能）。

合わせて、ネットで写真家団体のホームページを見たところ、公共地で屋外展示（設置）されているものは、撮影・公表に問題はないようですが、私有地内で撮影したものの場合、公表への地主（管理者）の承諾があるとよいようです。上野では、寛永寺など神社仏閣の境内や上野駅構内（国鉄時代は国有機関ですから問題はないのですが、JR となってからは私企業）等が該当しそうです。

以上、ご意見、ご助言、ご協力を！早いほど助かります！どうぞよろしくお願いします。

（事務局担当　小川潔）